

加入者のための ワンポイント解説!

加入者の皆様にわが国の医療制度の課題や健保組合・健保連(健康保険組合連合会)の主張についてわかりやすく解説するものです。

健保組合の財政は、火の車で、5年連続して大幅な赤字となっており、
厳しい運営を余儀なくされています。

2012年度の健保組合予算では、1,435の健保組合のうち約9割が経常赤字で、
4割以上の健保組合で保険料率を引き上げる見込みです。

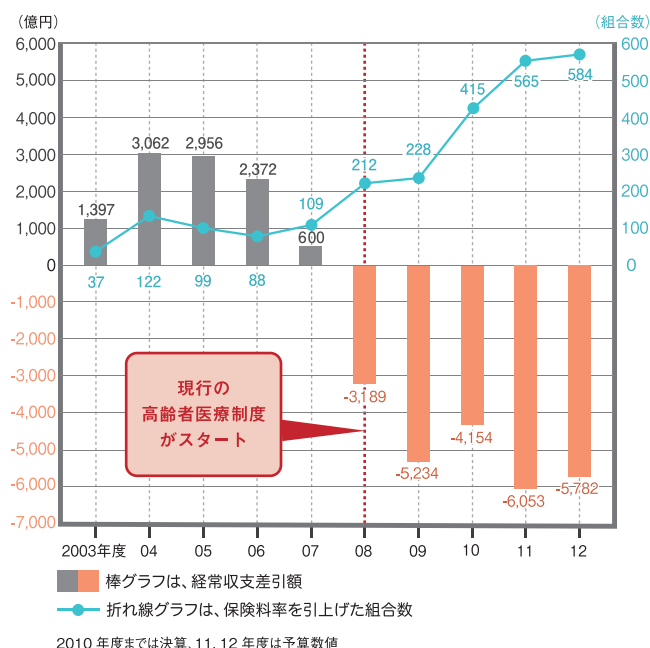
また、ほとんどの健保組合が、これまで積み立ててきた資産を取り崩さなければ
ならない状況に陥っています。

健保組合がなぜ赤字になったのでしょうか?

高齢者医療費を支える負担方法の見直しにより、
2007年度の高齢者医療費の負担は健保組合全体
で2.3兆円、1人当たりで年間14.7万円であった
ものが、08年度には2.7兆円(18%増)、
1人当たり17.1万円(16%増)と一気に
跳ね上がりました。これにより、健保組合財政は
急激に悪化し、08年度以降、5年連続で赤字と
なっています。

健保組合に加入している方の2012年度予算の
1人当たり保険料は、事業主負担を合わせ
年間43.5万円(総額6.8兆円)ですが、
そのうち46%にあたる20.1万円(同3.1兆円)は
高齢者医療費の負担に充てられており、
その割合は年々高くなっています。

健保組合の収支状況と保険料率引上げ組合数の推移



健保組合の財政悪化に歯止めをかけるには、過重な高齢者医療費の負担を
軽減することが必要不可欠です。健保組合・健保連は、高齢者医療制度への
公費(税金)の投入・拡充を強く求めています。